

\*1201100595869\*

雜 53  
52

E

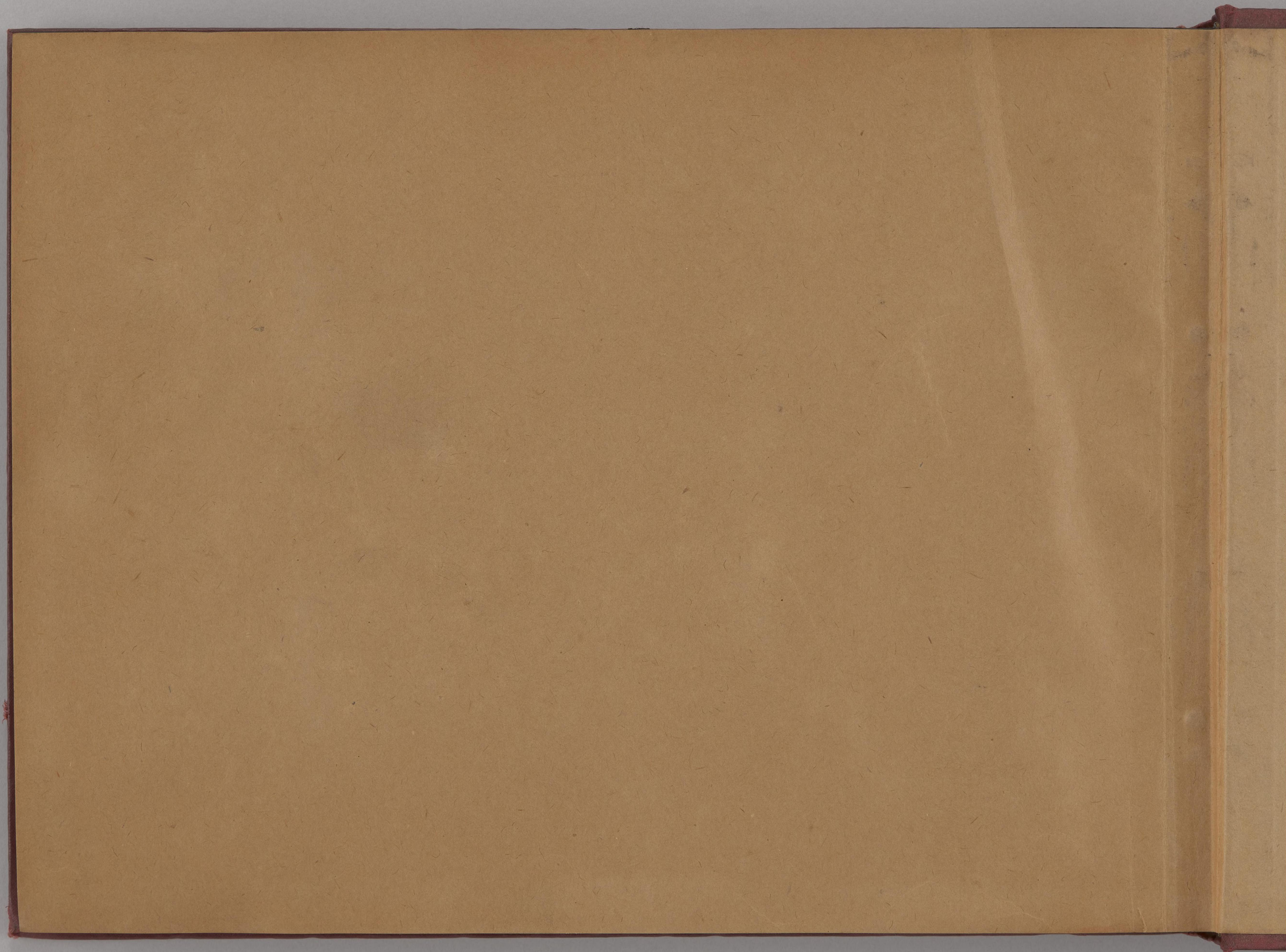
禁電子式複写





















同窓會の集り多し人 才多し

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人

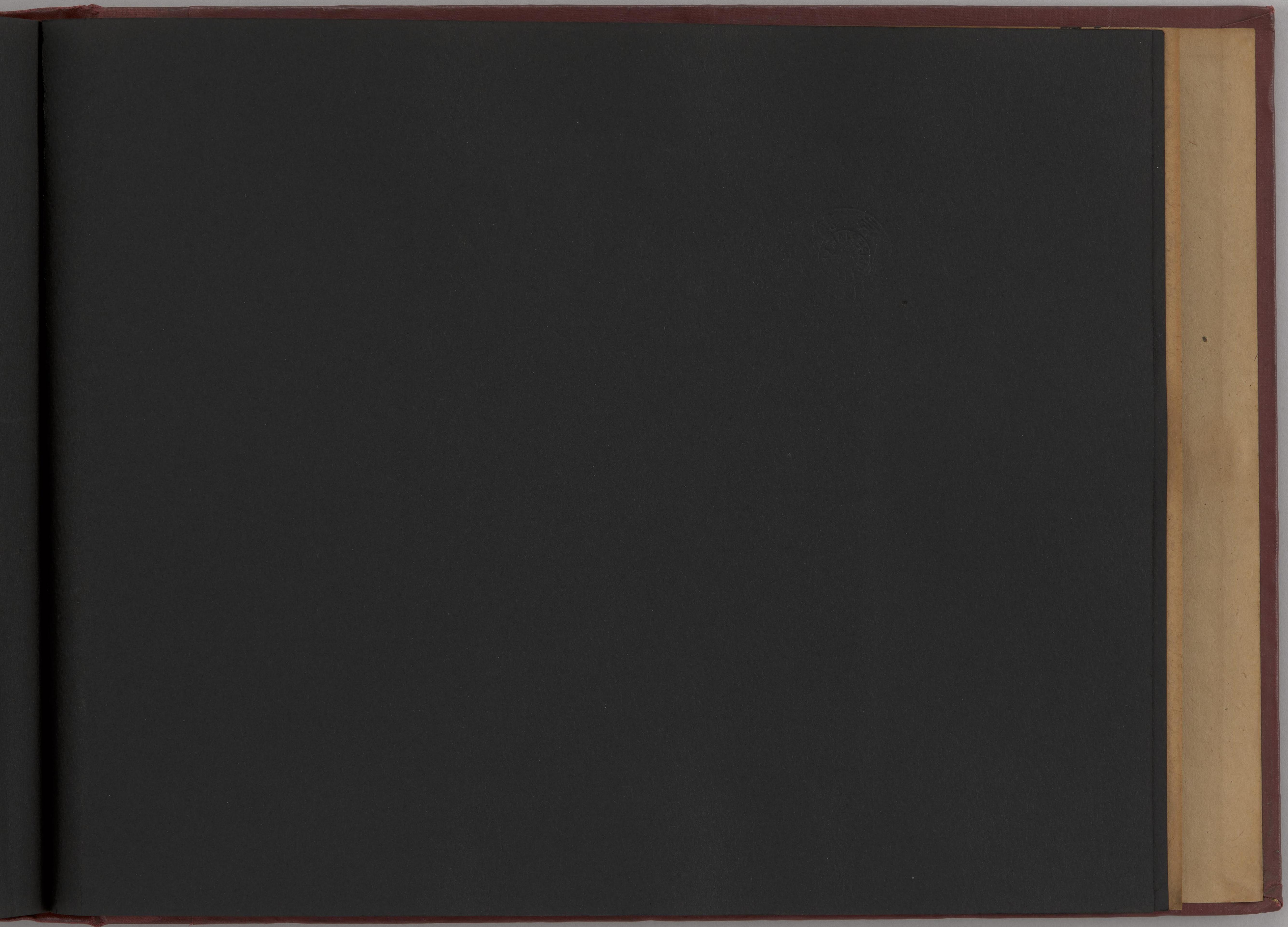
同窓會の集り多し人

同窓會の集り多し人





























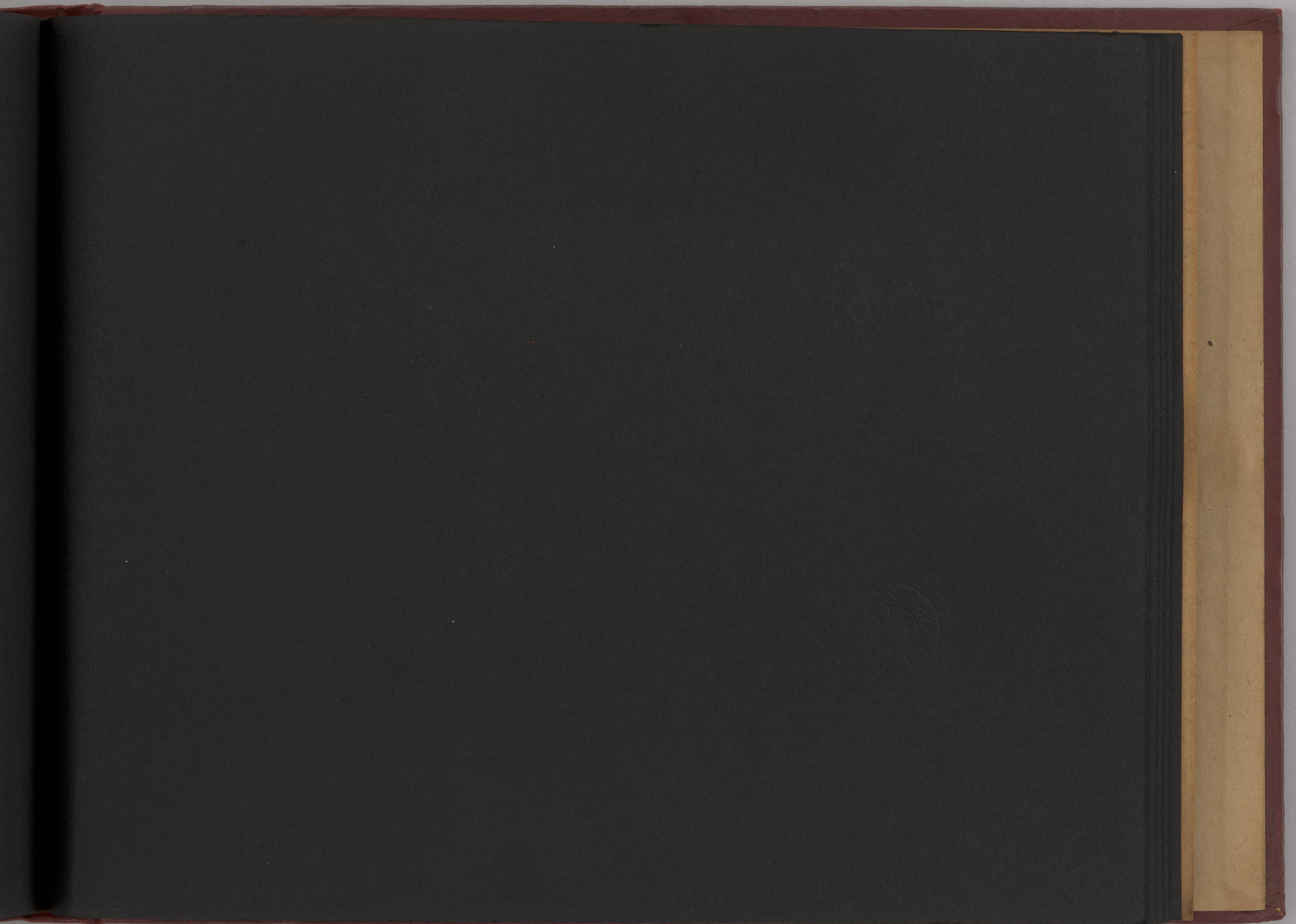


















同型写真三十二 (高外)

① ライクス式 早稲刈り機見物

(東京) 十一年九月二日 夜

吾國創作遊芸々々ライクス式は二の

夜早稲演劇協会等東京内各劇

団員を以て演劇界に先づ動舞社を

て演劇の天啓と稱す、在劇下

諸君中の八名を十協同、一國を動舞

社を協同、二人は舞臺也、劇物

の二、キーの一人、演劇を右に協同

へ演劇の演劇の名を以て演劇トト

見物也。

演劇日  
一、演劇の演劇の名を以て演劇トト







同遊一具其二三ノ人カニ

○山ノ不為の寺家公院

増上寺々々家ノ虫ほし

可(幸)幸年九月三日

淨土宗大本山増上寺では之し中

絶しを在り家の虫ほしと三ノカ

六の事あり。又柳向中に今寺向物

並に三門の石観音を許すことあり

三回依来り傳傳、張心上人の縁伝

等因家其他教の事と許観(十)

馬者反

一由石溜瀝の掛軸万事の虫ほし







同鑑(寛永十一年)三十一人(寛永十一年)

の(寛永十一年)振るる(古)にある。

「秋曲「姨捨」 〓

(寛永十一年)九月三日夜

寛永十年井伊掃部頭(の)柳(上)上(後)  
未(少)め(ら)太(白)言(平)に(只)一(回)上(後)未(先)  
お(り)の(外)不(出)て(あ)る(左)能(業)の(秋)曲、  
姨(捨)の(あ)る(十)月(十)日(お)の(河)の(中)に  
能(業)の(者)を(持)者(守)三(郎)金(次)の(在)  
工(門)内(氏)の(多)心(平)年(振)り(に)古(に)あ(る)  
三(と)五(と)七(と)の(秋)曲(は)能(業)の(如)知(古)阿(阿)角  
元(清)の(作)は(新)新(新)新(守)三(郎)の(時)に(又)  
料(姨)捨(山)に(多)く(は)る(者)女(の)信(悦)か(ら)取  
材(した)息(氣)せ(る)者(曲)た(る)阿(阿)角(の)元  
め(阿)曲(の)様(を)か(ら)つ(た)外(の)か(ら)る(者)を  
者(中)の(よ)ふ(人)阿(阿)角(二十)年(の)か(ら)る(上)後  
の(は)二(六)と(あ)る(者)を(持)者(守)三(郎)の(在)  
阿(阿)角(は)新(新)十(年)中(の)者(持)者(守)三(郎)女(子)







同監國有之三人 介見

○字坊前總督府の万午初基

（中略）十年九月

→ 広田首相の通政朝鮮総督

榮藏を退任の體場より

近一公大村の前政務総長

琉球代官の候補者あり

正午首相官邸に招待

の年終の慶を催したる

四外相外は関係あり

一喜多は

下首相官邸にて





Handwritten Japanese text on a vertical strip of paper to the right of the photograph. The text is partially visible and appears to be a list or record of names, possibly related to the individuals in the photograph.











同盟軍あり三丁又分言

の成都事件に倒し

許大使再及外相協同

東方より平九有也

駐日中国大使許吉美氏は成

都に同じ中平二十時十分自及

外務省に有回外相を訪問中

京政府の意向を傳へて重慶

に於て見。

軍事は

て右件大使は有回外相







同盟軍真三ノス

中一〇五

秩父大隊長宮殿下

八甲田ノ坂行軍

(東京、十一年九月五日)

青木林忍飛

秩父大隊長宮殿下には三日佛曉

歩兵アル三十一聯隊營門を垣出ス飛

部下アル三大隊將兵を垣内陣一取は

され峻峰八甲田を目標一之難関

急勾配の城ヶ倉林道を垣内陣

に之強行取はされ夕刻酸湯湯

泉高台露营地に抵到着全夜は

其儘露宿秋冷キハレハ山腹に垣露宿

取はされ四日早朝五時五起床ソマカ

の皮筋の色もなク午八時八甲田を

取物登坂下山取はされ

号真大坂行軍アル二日(四日)八甲田山麓

雲谷峠に於ける適羽日終ニて雲谷部

落止に休息取はされ秩父大隊長宮

殿下







同盟 宇子直大ニユース 泉子ニユース

◎ 重光新大使の ~~日~~ 日曜

(東京) 十一年九月六日

大田大使の後任として駐露元使の  
重任に任命された重光氏は ~~日曜~~  
日曜日を 麹町三番町の自邸に  
静かに過した。

赴任を目前に控えて自邸の庭に  
多年手掛けた ~~庭~~ 庭 植木  
等を見過ぐる新大使の目には  
重任に對する重大使命の沈意  
がうかがはれた。

宇子直大は 初日曜日の重光新  
大使 (自邸にて)















同遊四島三十分 十分

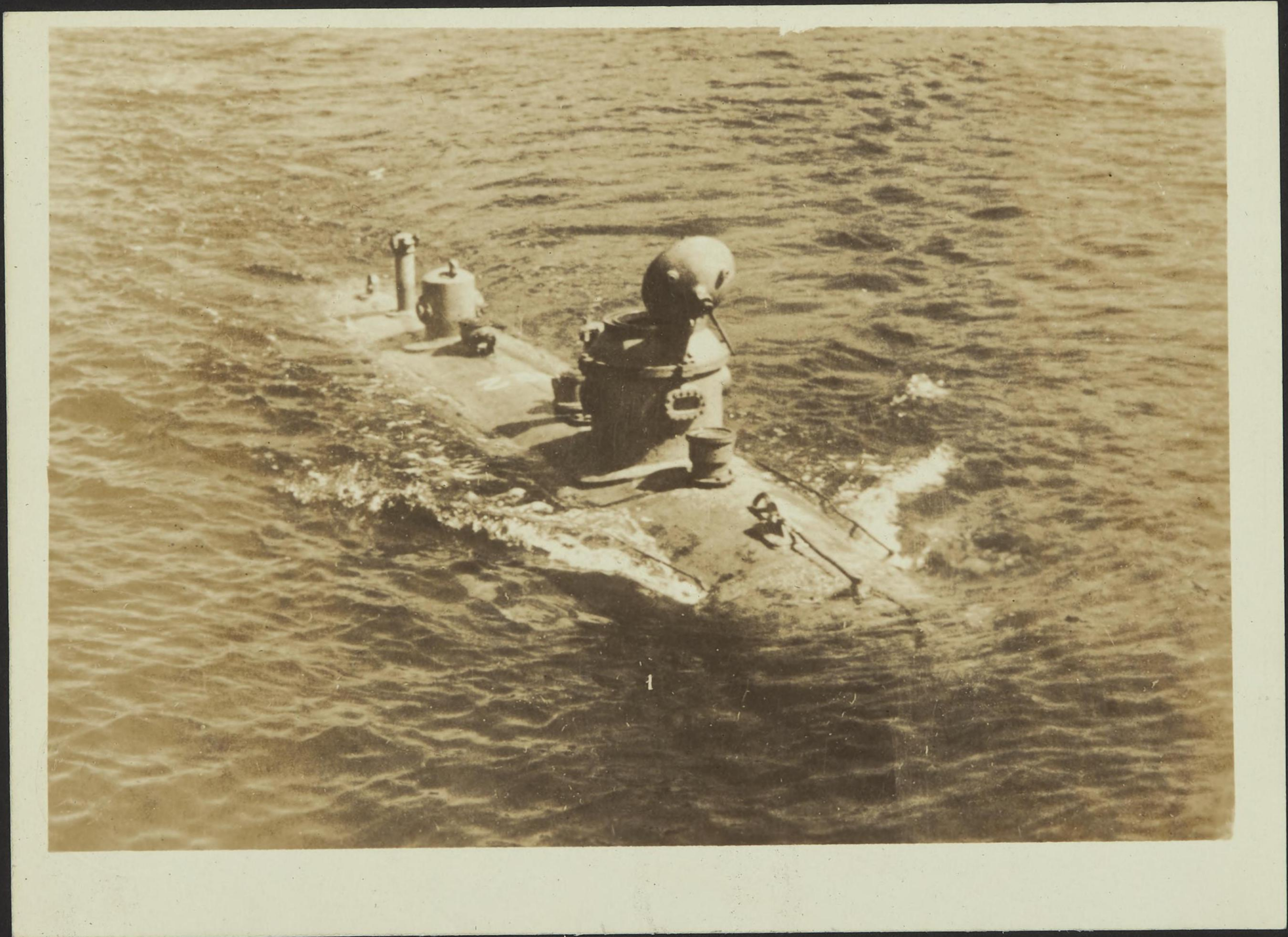
○豆諸水艇下

一十時防威と押る。

甲子年十月十九日

深所研究所村式諸水艇下  
廿二(船長一〇米七八二寸上、下、右、左、二  
由馬力、水、去、強、重、水、中、五、海、軍、の  
已に、深、夜、十、時、以、降、夜、十、時、間、余  
を、諸、水、艇、主、の、記、録、を、得、た、事、も、十  
月初旬、文相大岡田吉村、帝大、雨、雲、  
中、光、子、氏、が、培、植、教、授、理、研、仁、科、博  
士、水、産、試、験、所、下、着、の、九、川、北、の、諸、等  
が、大、島、初、島、と、中、心、に、由、及、徳、生、島、を、基  
据、地、の、及、海、流、深、深、の、果、相、物、の、生、  
態、地、質、の、調、査、実、字、面、録、を、集、録、し、  
の、三、冊、を、あ、つ、た、  
寫、本、は、一、豆、諸、水、艇





Handwritten Japanese text in cursive style, likely a diary entry or a note related to the photograph. The text is written vertically on a piece of aged paper.



河内國葛城郡三上村 才重

の暇宮孝宮内親王

宮城へ去帰候

御事申上奉有

女子宮内院侍在中の遊宮孝

宮内親王殿下には御事申上奉有

御附屬部には侍遊者申上奉有

ら小倉の土の御事申上奉有

小倉の土の御事申上奉有

井の御事申上奉有

小倉の御事申上奉有

内儀行儀に申上奉有

可也

一礼申上奉有





一覽  
一九二九年  
五月  
五











千尋の江陵

# 千里の江陵

## 下駄ゆきで帰る

舟木ノワノ水上スキー

田舎のスキー場

水の上を滑るの楽しさ、  
 八日坊主の水溜りの清流でお目見得しを。  
 空を飛ぶのは、  
 はじめをこの下駄で、カヌーのオールの推進  
 と舵とりをよみ。ちびるおけの道具、  
 まわらぬ易々と出来るし、  
 スキーと同様クリスチヤニヤニしてスキーも出来る。  
 激流をさつと滑る、  
 舟木ノワノ水上スキー  
 倶楽部員 ↓







同盟 島根 三ノス カニ

の 方面 委員 藤田 関係 招待

(中略) 十一年 九月

全国 方面 委員 の 藤田 関係 招待

方面 委員 藤田 以下 九の二 十一年 藤田

会 藤田 以下 各 関係 招待

待 午 餐 と 併し 格 々 懇 話 した。

可 貴 者 は

一 種 補 員 長 松 田 村







同明寫真八三十一 才一

○白皇太子殿下と西宮様

那須から葉山御用邸へ

(東京)十年有十の

那須御用邸に法遊り着中の皇太子

子殿下は七日平白の座以來早

敷の振りと古再入清雨親陛下在

はす葉山御用邸に法遊り着る

た。この朝殿下には義官順官法

持るに元勝大支等法付き申上出向

勅令に法遊り着る、午前十時早

上御殿に法遊り着る、自前車

午直零時三十分午車を法遊り同

時三十分迄子法遊り着る、自前車

に葉山御用邸に法遊り着る。

寫真は、上御殿に法遊り着る、自前車

より皇太子、義官順官各殿下。





寫真、上野公園、  
女子、新宮、  
各段下。



同監 一馬真六三十一又 分二

の 閣僚 艦隊 見子

横須賀 十一月十九日

寺内陸相 平定文相 林法相 島田

農相 山内高相 頼母 志道相 等は

水産相 頼母 内下 十一月八日

平定 横須賀 常陸 島田 艦隊 白

露 艦隊 同 十月 十五日 龍山 艦

に あり 艦隊 中の 聯合 艦隊 艦長

門 艦隊 直ちに 艦隊 艦長 艦隊

見 艦隊 艦長 艦隊 艦長

艦隊 艦長

白 艦隊 艦長







正史の編纂の事 三十一 文部

○文部委員の送出大評定

(東京) 十一月 七日

松田政雄を委員に、帝展も文  
展にも送りさせた平生文相は文部  
省の面目を掛け、世に聞かぬ程十一  
年、文部省員、美術展覧会の委員  
として、自ら委員に推して、文展委員  
並に審査委員を送り出すと、都府商  
と、帝展、文部委員の打合せは、十一  
日、十一月、から、文相官邸で  
行われた。

委員は

河原清三郎、松田政雄







同然見考ニテス カニ

⑨。ハトワフ金貨事件の証文

荒木大方持法は証文

同(一)十年九月

華の事... 將軍... 手配... 返還... 左... 木... 小... 探...

同考は

一... 証文... 荒木大方持







同遊一馬真三ノス 牙ノリ

の待望、村のリークハ戦況幕

（東三）土年九月十二日

初秋の外は死に懸念ふスオウワノ業

方大分ナ秋字ナリークハ戦況幕

小老。一年掛りに顔を持へたみ秋

方精鏡入る此小老の熱戦は一七電

巻終巻と及候した。

写真は

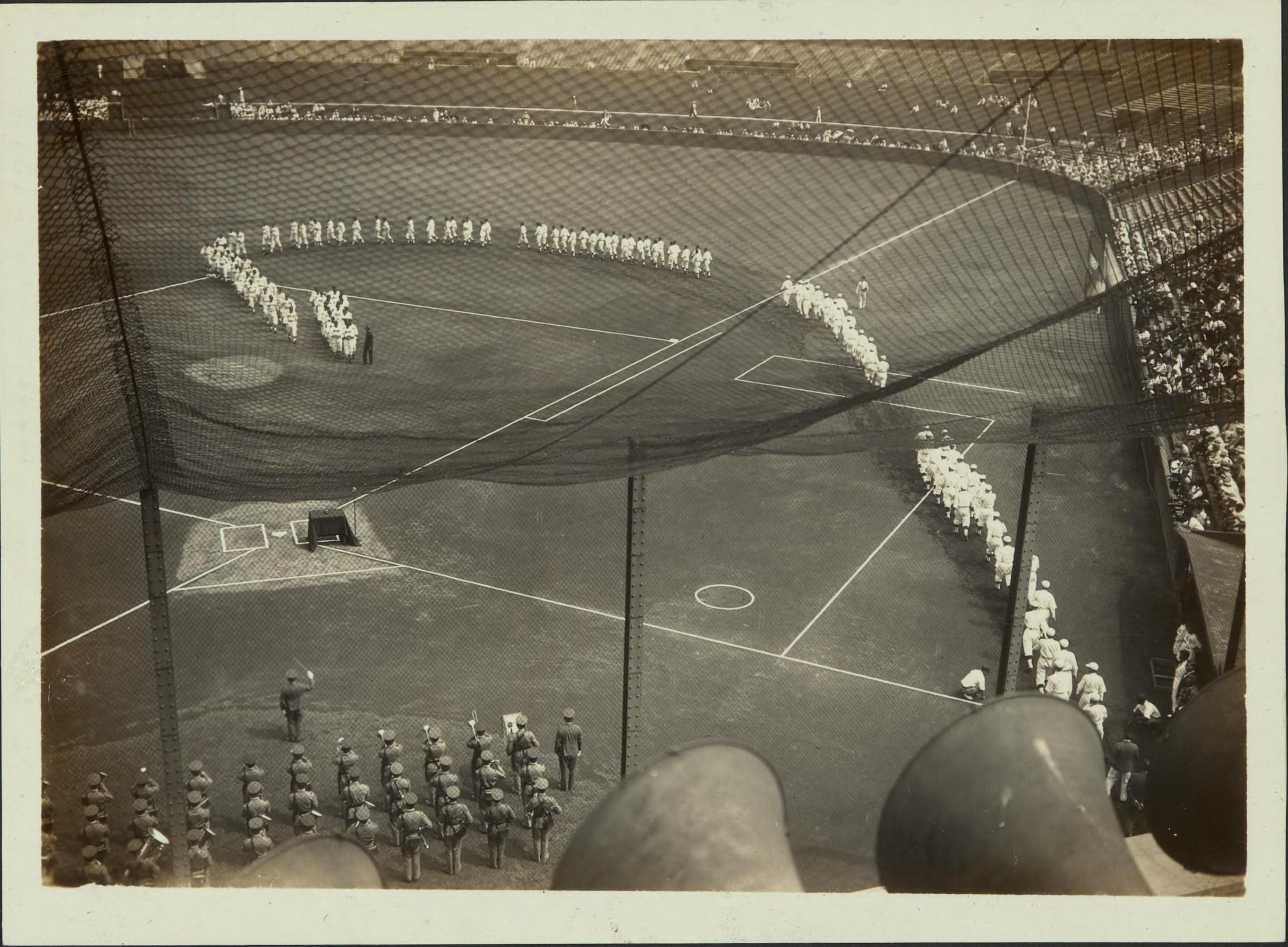
一、晴山の入り式

一、平生文相の始式

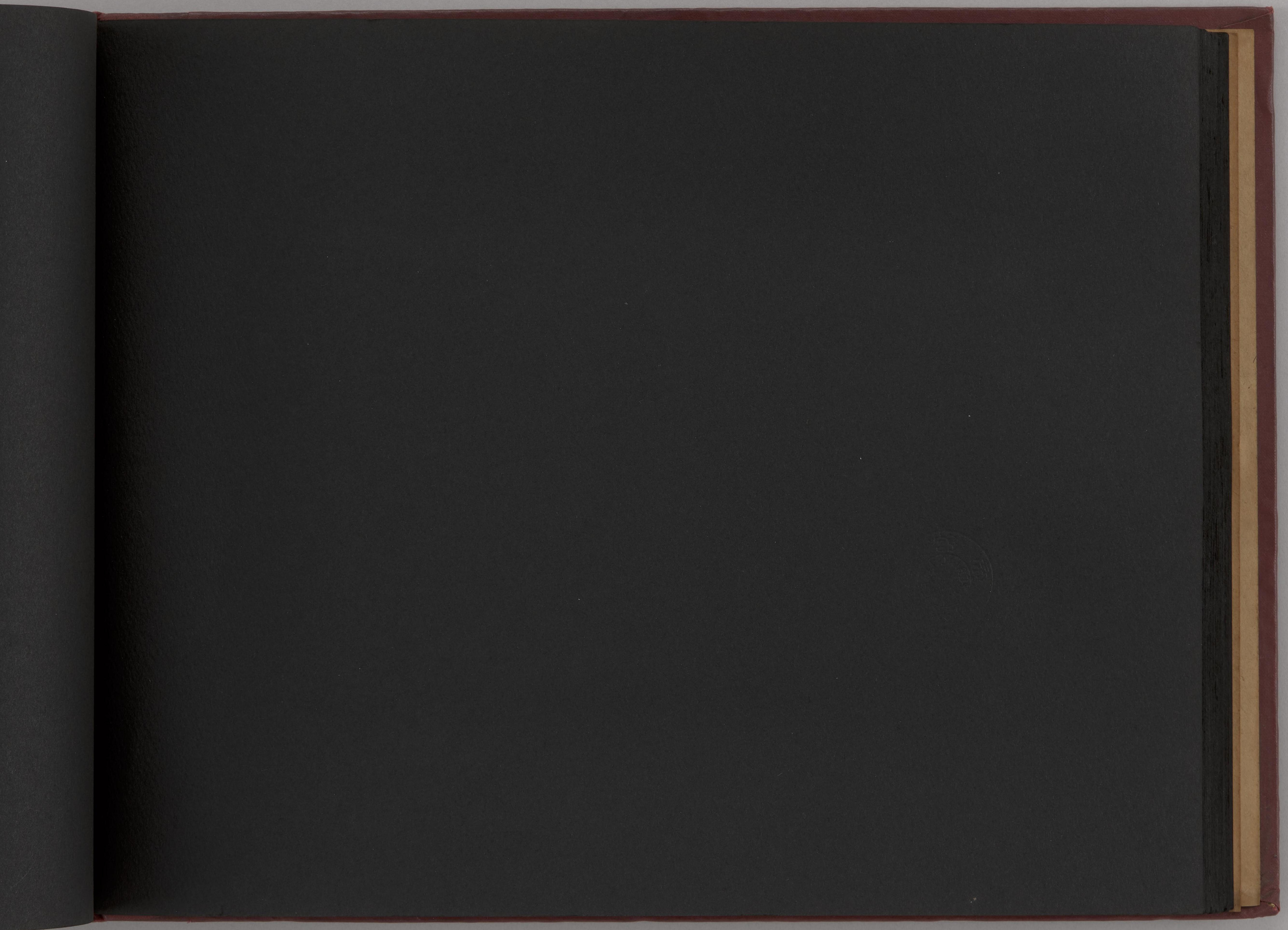
一、七回表早大三好の一田窪ゴロビ

高須ホームイン























同 監 二 三 一 六

九月十五日

回 里 川 能 の 初 公 路

天下の奇蹟と稱せられたる山形県の  
里川能上下両座百穀十段の半  
かり西平太夫及び耕耨部四十名を  
招き聘ししと云ふ古牛込新小川所  
蔵甚厚能楽堂にて初公路を存す  
此能は明治四十二年上座に奉納す  
十年下座の上座下座ありと  
告書其式三番翁 上野丹山宮氏

回 法 立 降 球 戯

高次郎球戯りの法立後存す  
多那宗球戯りし片付れ在  
宗秀片羽三回表 立教 防部  
三つ口矢に一星に重く  
又二丁立教七点一法政三點















回遊可馬券三丁六 才三丁

○白鷺總知事務引継(和)

東方也幸九日十四日

小林白鷺總知事十四日午後十時

麹町区因事所の白鷺總知事

幸務可江左鹿中川吉徳知事

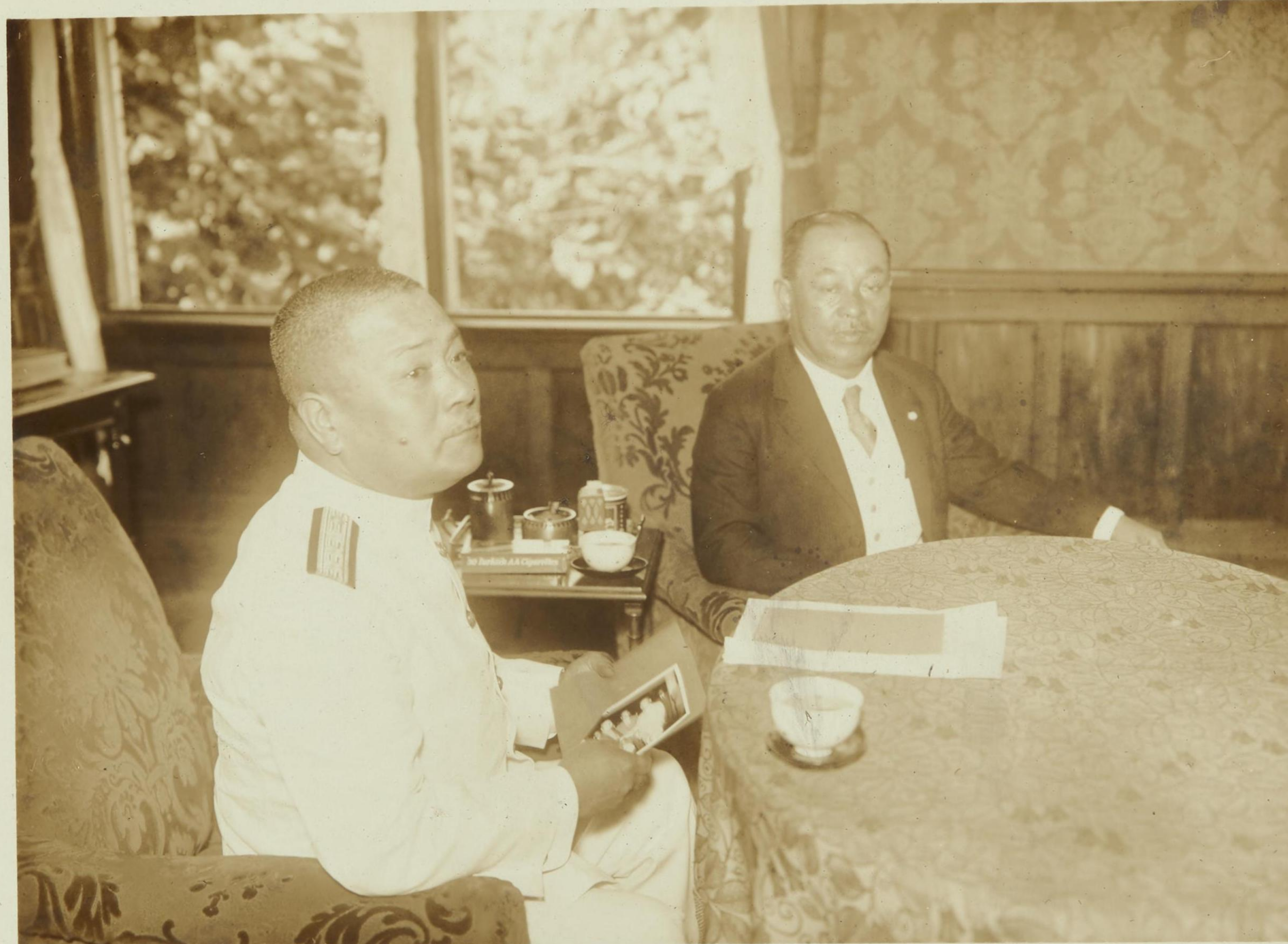
二名引継きし受けた。

寫るは

下向る右より小林白鷺總知事、中川

吉徳知事







同明三國真人三十一人 才可也

① 西陲下 魯家山より 遷す被

田者也 十年 九月 廿五日

天皇、皇后西陲下には 幸る 七月 辛

丑のち 同列に 魯家山 陽部 に行幸

啓 あり せら 小 する 將 局 と思 方 宗 小

し 祝 儀 所 用 耶 行 幸 諸 の 儀 等 也

く 引 續 ぎ 遂 業 山 上 耶 等 幸 遊 行 主 先

高 郡 にも 祈 々 祭 儀 言 々 十五 日 辛 丑 時

五 方 にも 幸 小 殿 所 着 五 土 土 振 振 儀 宜

茲 に入 せら 小 也。

馬 者 也  
言 也 城 者 也 言 也 陰 也







同盟

西貢ニユース

カー号

の牛坂京市長に

コーラの創製を

（東京）十一年九月十五日

豫ねて資料中の濃洲シトニー、クロン  
が動物園のブラウン氏は十四日午前十  
一時半、お蔭に牛坂市長を訪問、資料  
の採擷を述べると共に濃洲の名物、愛  
嬌の、コーラ（名子守熊）の創製を  
お土産として贈呈して退去した。

写真は

ハコーラを捲く牛坂市長と右三氏







同遊 写真ニカース カニ号

◎大江戸を偲ぶ天名れり

赤坂氷川神社の大祭

(東京)十年九月十五日

みのりの秋を身ぐま赤坂氷川神社の  
秋の大名が始まつたの咄の鐘、太鼓  
の音、マワシヨシヨシの神輿の御毛  
鬘ましく街の気方を渡る。中に七ッ  
の多の呼ぶものは大江戸の昔を偲ぶ  
大名れりだ、槍持々の二湖に余る大  
槍のやり取り、エイホーの掛け声と  
共に美々しい駕籠のれり、ささか  
高きか高き物を纏りてろけられ、  
行列はゆく。

写真日

一、大名れり













留學女子  
花嫁  
和服  
隊  
合  
影



回遊 四角ニユース オース

○恒年の馬場少年にかへつて

花相本身小學校の祝賀会へ

(平家) 十一年九月十六日

ムツワリ花相の馬場さんを迎へて十六  
日朝八時から花相の母校九段亭を見小  
學校の大臣就任祝賀会へ催され、秋  
晴しの校庭に下級生代表三年生伊藤直  
次君(司)の「馬場さんよくいらつしやい  
ました僕も大きくなつたらオオの馬場さ  
んに参ります」といふ心地の強い挨拶に  
迎へら小と花相を壇へ呼さん私共、  
この運動場をいざつとこへは先生に比  
から小を催す、夫れが大臣にまつ  
たのは皆の先生親の恩です、恒年の  
馬場少年にかへつて感戴の態、万才の  
幸に送ら小を催す、小の足でこ  
ん夜はこを催す、小の足でこ  
に参る、小を催す、小の足でこ







同盟通信  
軍部通信ニユース

九月十七日発行

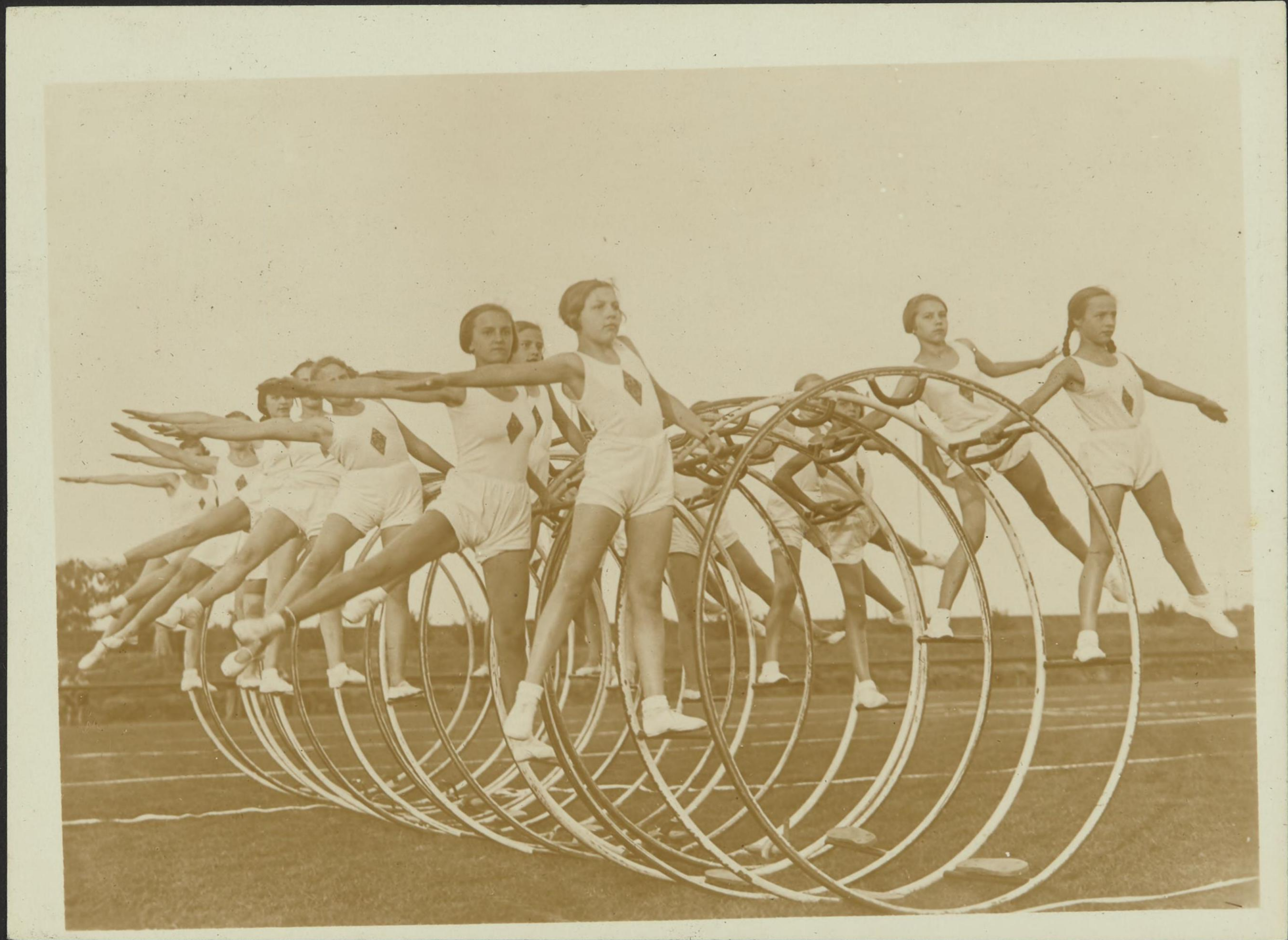
凶新型エスポーツ

ベルリン八月二十九日発行同盟

近來新スポーツとして各國に  
盛んに行はれるマニに於ては  
に於て団体美を表現する。  
遊戯が考案され目下大洋利  
となつてゐる。

（手紙）はベルリン美少女の  
美しきポーズ。







に邊 再更ニユース (カキ)

◎太陽の赤い術に立つて

広田首相の晴の顔

東条(土) 壬午九月廿七日

広田首相は十七日午後九時から本町  
川方面の太陽の赤い術に何れ細長階級  
の生徒が態を視察した、まづ同窓病院  
に赤い術をした、その指苦に指の現象が  
身には赤い術をした、広田首相は赤い術  
の赤い術をした、赤い術に無心に戯れた  
カト下階級の子等に赤い術を指かへ、五仁公  
許首相では十銭の小金ズボンを見てこ  
れが労働者の飯の代とあると、その更  
に晴の顔、前後に赤い術の赤い術、赤い術  
は白井町長が説教で、三邊に四人程と  
云ふルンパン、赤い術の赤い術、赤い術  
に視察、赤い術の赤い術、赤い術、赤い術  
、赤い術、赤い術、赤い術、赤い術、赤い術







回覧

回覧ニユース

十三号

○滿洲子変五周年記念日

平素(五)十年九月十八日

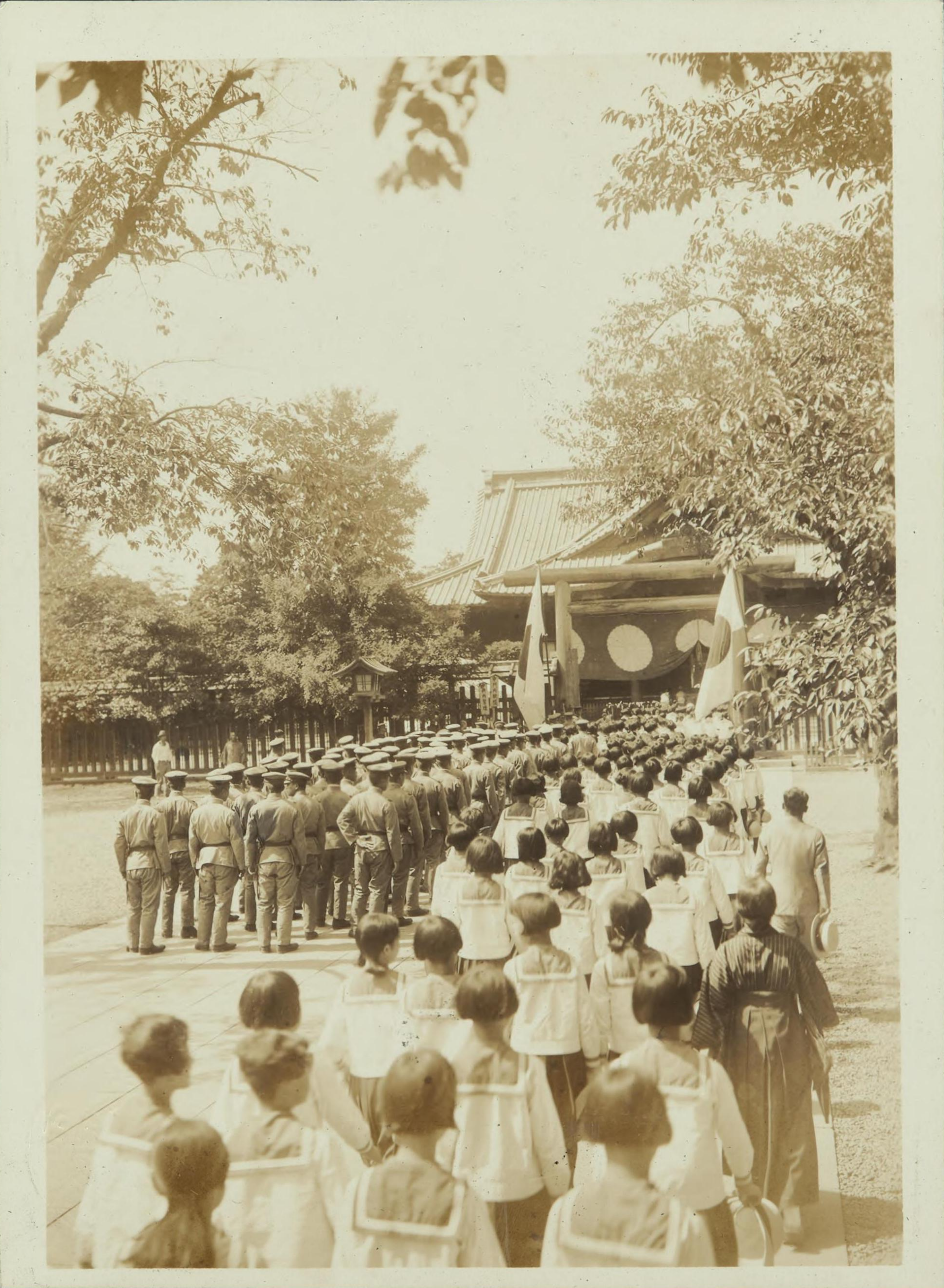
けし滿洲子変五周年、この記念するに九  
 月十八日を國陣の陣々で或は記念会、  
 或は戦没者慰霊会、記念講演会等を一併  
 に催して五年前の記憶を氷にする。靖國  
 神社では午前十時より記念祭典を以て、  
 軍人会館では午後六時五十分より記念の  
 夕を催し、同地若公會堂では午後七時半  
 から舊撰軍人にあて、又変展女也催し  
 かあつた

回覧は

一 軍隊の参拜 (北野靖國神社)

一 神官の参進 (一)



















1895





可也 夏更ニユース オト一言

○伯國經濟使節團未報

東京 壬午年九月十九日

南洋の友邦アラビヤから万里の波濤を  
越え輝しき日伯親善の使命を担つて十九  
日横濱入港のハエノスライレス丸で本朝の  
訪日伯國經濟使節團サレガート氏等の一  
行は金橋駅の歓送裡に臨港駅を特設した車  
で午後十時五十分を以て到着時分都入り  
せしが、駅頭には旦より訪日使節団を交  
相する、歓迎委員長坂内外系次官、松島  
通商局長及び関係者多数が迎へサルガ一  
と團長と理事と文相の握手を交した後  
一行は自勸館を以て商會後、可を指し  
御会談と挨拶を交し南園ホテルに今夜  
可自館

- 一、東京到着の一礼(生駒平生文相團長)
- 二、ウエスライレス丸に在りて團長(松島氏)
- 三、團長と文相の握手
- 四、横濱に於る歓迎振り、其後伯國親善杯







同盟

眞眞ニユース

第一号

① 警察協会花嫁学校の

第一回卒業式奉やりに挙行

(東京十一年九月二十日)

國民同盟總裁安達氏夫人雪子女史を校長とす  
る東京上目思の警察協会家庭学校の第一回  
卒業式が二十日同校で行はれに

四月に兩校以来良妻賢母なる事に専念せし  
りなく今日晴れの卒業を迎へた五十名の生徒は  
流石にルージュボブ姿はど一人も見当らず至つて  
心強い限りだ

料理、洗濯、裁縫、家事一切から果てはお姑え  
のファッションも一通りの花嫁修業を終へて早く  
も歡びの目を待たせ培ると言ふ許婚時代の人も  
ある

眞眞は校長安達女史の卒業證書授け式



1918





同盟

寧真ニュース

第二号

◎西郷さんの銅像清掃

(東京二十一年九月三十日)

東京の名物上野公園の西郷さんの銅像が無情の  
人達の仕事 紙礫で無情に汚れ美観を  
とぐ事甚しい。二十日朝九時から西郷会の人  
々と 東京下谷区西町報國少年団役員協力  
で掃子を持ち出して清掃が始まった  
がソと見聞した所、大きな目で大空をにらんど西郷  
さんは相変らぬムツリ。それでもきれいに美化  
された後は又持ちよき、ふと見へた  
寧真は西郷銅像の美化



1895年10月





同盟 海外寫真 ニユース 九月二十日

◎ソ聯の國青年デー二十年記念

(モスカウ)發同盟

ソ聯邦青年共產黨員の主催に當る國際青年  
日弟子二十年記念祭が去る九月一日モスカウに於て  
盛大に催された。

裝束も無慮六十万 梯子、旗、提灯、花  
輪、党及政府幹部の肖像等を擔いでモスカウの  
中央赤の広場より出發して市中を進行を行ひ  
ソ聯青年の幸福を祝った。

安直火は

一、参加した女子共産党青年団員

一、~~全、オーストリア、ドイツ、フランス、イギリス、~~  
~~ソ連、~~ 会)

一、赤の広場、に於ける青年は國際青年大會全景







同遊 再興ニユース 六三

① 聖園寺公坐禪莊に入る

聖園寺公は二十一 坐禪寺九附五十二分市

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊

馬車付

殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊 殿坊







回遊 西貢ニユース

カ一〇

○小林台端総持赴任

東京 十年九月二十日

小林台端總持は二十一日午後九時東京駅  
へ、永田首相、大角、野村兩  
大臣、鬼頭伯、中川副総持其他官民多數  
の見送り裡に村侍の途についた。途中熱  
田神宮、伊勢神宮、桃山法隆寺に参拝奉  
告の参拜をふし門司から熊本の予途。

可成は

一東京駅にて見送る所を強相(尤)と  
振手の小林總持



1942





同遊 再真三十一又 才甲書

○同伯經節会録

夫人連は市内見物

(東京) 壬午年九月二十一日

下ラビル佳節を迎へて同伯經節会談は平  
一十年あす時より丸の内商工会議所にて  
一之例及、会談部組之助男議長席につ  
き同伯経節連経節他に閑し右特等件を  
儀款に接し、終つて小川商相の儀の午餐  
会に参らん。猶ほ佳節團の夫人連中は市  
内見物に出掛け向ひます。あす時自本局  
に赴き席内見物の後、豆花の宴會を見  
学、例に依つて「オ、マケヒカ」を演奏し  
る也。

同真は

一 同伯経節(都内の挨拶)

一 夫人連の豆花見物

一 キモノ着付見物







同前 皇宮 東京ニユース

九月二十三日 葬儀

△ 義相私邸の白骨異変

埋葬 お墓昇造り 施餓鬼

（昭和十一年九月二十三日 東京）

非善非財の之類者として財を整理し、  
 十二年の秋大正御葬儀成と慌し、活躍  
 を請うたのである。馬場を相かとの多忙な  
 といふ時と二十三日午後一時半から在るに  
 花火山の白蓮宗の御僧寺へ夫人令嬢  
 同様にいかに白蓮宗の御僧寺へ夫人令嬢  
 草花のぬき無縁佛の墓の先に施餓鬼する  
 此れは義相の二重橋の邸か今、おやお山に橋を  
 御僧寺の草花地跡に白骨がけ活気味悪く  
 といふ、おこころい、縁起を損ぬのは嫌ひか  
 と言ふ、い、い、何とかな、い、の、い、橋と、草花  
 建立となつたらしい。碑面に「義相直筆」  
 といふ有縁無縁諸君とあり、首表には  
 「永代経料金二百円、昭和十一年九月、馬場  
 録一捐」とある。永代経料、お心刻みと  
 ちあはれは流石に七十年の財政に及らぬ  
 字、東は馬場を相の墓を参る。